

七つ小屋—大源太山周回ルート報告

【山城】新潟県・南魚沼・七つ小屋山（1674m）・大源太山（1598m）

【日時と天候】2015年6月7日（日）晴れ

【メンバー】菊池単独

【行程】林道終点登山口駐車場（700m）5：40—8：24 シシゴヤの頭（1472m）—10：28 七つ小屋山—11：59 大源太山—14：42 駐車場

・大源太山山行はかなり以前の秋、ちば山の会の集中山行で実施されたが、その頃興味は



なかった。その後鶴田さんと白毛門—蓬峠—土合の周回ルート（馬蹄型周回の半分）をや
やはり秋に実施した時に清水峠に向かう下り
で、錦秋のかわこいい大源太山を目にして以
来、いつかは来てみたいと温めていた。その
頃は「上越のmatterホルン」という評判の
呼称は知らなかった。蓬峠付近には無雪期に
2回、山スキーで土樽から土合に抜けた3月

の2回と今回で5回目である。

信濃町在住の4年間で、千葉よりアプローチが大分近くなり、この2～3年は、ますます大源太山への憧れが募ってきていた。

1 昨年の6月末、新津の妹の家をベースに土曜日に鳥海山で山スキーの板納めを行い、その翌日に大源太山に登ろうと欲を出し、いったん決心はしたものの、疲労により断念、秋に再度、大源太ピストンで紅葉を楽しもうかとも考えたがやはり実現できずに経過していた。ネットでの報告を調べてみると、この2～3年は私の大好きなシラネアオイの旬の時期（5月末から6月初め）の周回ルートに大いなる魅力を感じ始めていた。

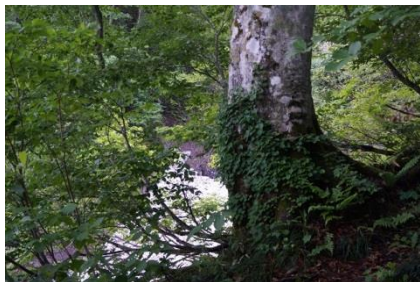
・七つ小屋山と大源太山を巡る周回ルートにはいくつかのポイントがある。コースタイム8時間強のロングルート、渡渉、大源太山頂直下の急で厳しい鎖場などである。今年は残雪が少なく、残念ながらというか、ラッキーというか山スキーを5月末で終了することができ、シラネアオイの旬に時期に照準を合わせることができた。

毎週のように山スキーに通い、また週に3回程度、8kmのランニング、そして増えすぎた体重・どうにもならない太い胴回りを何とかせねばと1週間ほど前から、野菜を多く摂取するダイエット（3日坊主に終わらないよう努力したいが）など、万全？の準備を行ってきた。

・すでに関西地方まで梅雨入りしていたが、なんとか7日の日曜日は絶好の登山日和となり、前日の午後4時千葉を出発した。渋滞も少しあり、22時前によく関越トンネル出口にある駐車場に到着した。駐車しているトラックが2台で静かな駐車場、車中泊をした

が、興奮のあまりなかなか寝付かれず、ようやく 1 時頃からうとうと 2 時間半程度眠れたようだ。アドレナリンが出まくっているのか、睡眠不足にもかかわらず、体調は悪くなかった。

・シシゴヤの頭からの稜線上にシラネアオイが多く、かっこよい大源太山を見ながら進む反時計回りのルートを選択した。



ブナの見事な巨木、最初の花は定番のショウジョウバカマ、残る雪渓が間もなく現れると早くもシラネアオイ

のお出迎え、大振りのイワウチワ、イワカガミなどを楽しみながら、ゆっくり高度を上げていくと暫くして視界が開け、残雪を頂く苗場・神楽峰から万太郎・仙ノ倉の山並みが連なっており、シシゴヤの頭に到達した。対岸にはこれから向かう大迫力の大源太山が待っている。



・蓬峠方向への稜線

は山スキーの時期に土樽から 2 回登り上げている。スキールート进行を思い出し、地形を觀察しながら進む。残雪の山々をバックにアカヤシオ(ムラサキヤシオ化?)を撮影、さらに登山道の脇には見事なシラネアオイの群落が続いていた。まさに至福の稜線散歩である。「来てよかったなあ」と思わずにはいられない。

・蓬峠近くの稜線に達すると残雪の白い斜面、緑濃くなり迫力満点の谷川連峰とのコラボが素晴らしい。広くゆるやかにアップダウンする稜線を七つ小屋山に向かうが、足元にはタテヤマリンドウが可憐に咲いている。コバイケイソウも開花寸前であり、谷川の岩峰をバックに写真撮影した。





対岸の朝日岳から残雪豊富な清水峠付近・巻機山を眺めながら七っ小屋山山頂に到達した。山頂には反対ルートからの登山客がガスボンベでラーメンの準備をしていた。小生も 360 度の大自然を眺めながら、ゆっくり行動食休憩を採った。

・順調に進んだ周回ルート、これから先は本日の核心部、ストックを片付け、気合を入れて大源太山山頂へ向かう。左右が切れ落ちた細尾根も慎重に進めば問題なし。最後の急斜面の手前にも素晴らしいシラネアオイが励ましてくれた。最後の 2 本の鎖場はさすがに急でハードである。かなり緊張しながら、慎重に急がず、足場を選んで、気合の踏ん張り登りで山頂に到達した。山頂には 10 数名の登山者、反対ルートを選択する方々の方が多いようだ。



・数年来憧れの頂で暫く休憩し、急で滑りやすい下山路を多数のロープに助けられながら下った。渡渉も水量が多くなく恐怖は感じないが、ロープを頼りに丸木を渡るところはバランスを崩さないようにせねばならなかった。コースタイム 8 時間 20 分のルート、休憩時間を含めて 9 時間と順調なペースで山行を終えた。岩の湯 (400 円) で疲れを癒し、コーラで我慢、アルコールフリーは販売してなく残念であった。帰路、事故で月夜野から昭和インターまで交通止めのため、三国峠経由で帰ったが、月夜野から昭和インターまで渋滞がひどかった。高速ではほぼ渋滞はなくなっていたが我が家には 22 時半頃帰宅した。

